

令和2年度 高等部の教育目標及びめざす生徒の姿と重点事項（案）

|        |  |
|--------|--|
| 学校教育目標 | <p>「子供たち一人一人の夢や希望の実現に向けて」<br/>～すべては子供たちの幸せのために～</p> <p>児童生徒の生命と人権を守り、一人一人の教育的ニーズや特性、能力等に<br/>応じたきめ細かな教育を行い、自己のもつ能力や可能性を最大限に伸ばし、<br/>「生きる力」をはぐくみ、自立や社会参加に向けて、「明るく、仲良く、元<br/>気よく」がんばる子を育成する。</p> |
| 学部教育目標 | <p>青年期の心身の発達状態を踏まえ、教育的ニーズや特性、能力等に<br/>応じたきめ細やかな教育を行い、主体的に自分のよさを発揮し、心豊かに自立と社会参加が<br/>できる生徒を育成する。</p>  |

|                                      |                           |  |
|--------------------------------------|---------------------------|--|
| 学校がめざす<br>児童生徒像                      | 学部がめざす生徒の姿と重点事項           |  |
| 心身共に健や<br>かな児童生徒                     | 1 自己の健康、安全管理や運動に関心のある生徒   |  |
|                                      | 重点事項                      | <p>(1) 健康の維持（生活リズム、体重管理、体調管理、水分補給、衣服の調節等）<br/>を意識し、実態に応じて自己管理するための適切な指導を行う。</p> <p>(2) 日常生活の指導、LHR等において、外部講師を計画的に活用し、生徒<br/>の実態を踏まえた青年期における「性に関する指導」の充実を図る。</p> <p>(3) 保健体育（合同体育）の実施や各種スポーツ大会への積極的な参加など、<br/>生徒自ら特性や体力に応じた目標設定を行い、生涯体育への興味・関心を図<br/>るための改善と指導内容や手立ての工夫を行う。</p> |
| 発達に応じた<br>知識や技能を<br>身に付けた児<br>童生徒    | 2 課題に気付き、改善に意欲をもつ生徒       |  |
|                                      | 重点事項                      | <p>(1) 個別の指導計画の目標や手立てを担任間や生徒自身と共有し、生徒主導<br/>の授業（生徒が「何ができるようになるか」「何を学ぶか」「どのように学<br/>ぶか」の視点）を実践する。</p> <p>(2) 個別の指導計画の改善に伴う学習の評価を核にした授業内容の充実及び<br/>改善・工夫に努める。</p> <p>(3) 各教育課程の実践を通して、新学習指導要領を見据えた指導の形態や系<br/>統的かつ横断的な視点に立った年間指導計画の課題及び指導体制の見直し<br/>を行う。</p>                     |
| 様々なことに<br>興味・関心を<br>もち、自らわか<br>る児童生徒 | 3 自分の役割が分かり、自ら行動する生徒      |  |
|                                      | 重点事項                      | <p>(1) 授業の目標や活動内容を提示し、「まきようちから」を参考に、生徒へのよ<br/>り意図的なかかわりから、生徒自ら「したくなる」授業改善に努める。</p> <p>(2) 1日作業日の設定の伴う、「作業学習」の指導内容の工夫・改善など、<br/>諸課題を明確にし、全ての生徒が職業意識を高めることのできる授業環境<br/>作りに取り組む。</p> <p>(3) 各行事等において、生徒が一人一役で活動に主体的に参加するために、<br/>実態把握を十分に行い、学習環境を整える。</p>                         |
| 家庭や地域で、<br>自分の力やよ<br>さを発揮する<br>児童生徒  | 4 自他のよさが分かり、学習の成果を実践できる生徒 |  |
|                                      | 重点事項                      | <p>(1) 「心に届くあいさつ運動」を推進し、場に応じた挨拶や言葉遣いのモデ<br/>ルを教示し、生徒自ら生活場面で生かすことができるように指導徹底する。</p> <p>(2) 生徒の将来の生活を見据えたICTの効果的な活用と計画的運用を図る。</p> <p>(3) 生徒が「やりがいや生きがい」をもてるように、各種検定や作品募集等<br/>に積極的にチャレンジできるよう、周知と計画的な学習指導を行う。</p>  |